

新天皇陛下のご即位にあたり、心よりお祝いを申し上げます。

天皇陛下には、皇太子殿下であられた折に2度にわたり、日本医師会主催の「赤ひげ大賞」の表彰式にご臨席を賜りました。

各地域の医療現場で健康を中心に住民の生活を支えている受賞者一人ひとりにあたたかいお言葉をかけていただき、受賞者共々深い感銘を受けたことを今でも覚えています。

振り返ってみますと、平成の時代は大規模災害が多発した時代でありました。

日本医師会では東日本大震災、その後の熊本地震などの際に、全国の医師の協力の下、日本医師会災害医療チーム「JMAAT」を派遣し、被災地支援に取り組んで参りました。また、昨年から参加していただく医師のための研修も始めています。

災害はいつ、どこで、起きるか分かりません。令和の時代においても、これまでに蓄積した教訓を基に、被災地のニーズに沿った医療を提供できるよう、JMAATの機能をより高めて参る所存です。

超高齢社会に求められるもの

日本は今、超高齢社会となり、その状況にどう対応していくのか、世界中から注目が集まっています。

令和の時代を明るく社会としていくためにも、日本医師会では初代会長である北里柴三郎先生も提唱されていた「予防・健康づくり」に重点を置いた政策を進めていくべきであると考えています。

新しい時代「令和」も

国民の皆やんに 寄り添う医療を

提供する

平成27(2015)年には、健康寿命の延伸などを目的として、日本医師会を始めとした医療関係団体、経済界、自治体、保険者などが連携して、「日本健康会議」が発足しました。

今では都道府県版の健康会議も各地で開催されており、これらの活動を通じて、健康づくりの先進的な取り組みを全国に広げられるよう、努めて参ります。

また、その実現のためにも、ぜひ、国民の皆さんには、日頃から何でも相談できる、「かかりつけ医」をもって欲しいと思います。

新時代の医療

令和の時代には、人工知能(AI)やICTなどの活用がより進み、今まで見つけにくかった病も早期に発見することが可能になることでしょうか。

しかし、どんなに医療技術が進歩しようとも、医療は人が人に行うものであり、医師と患者さんとの信頼関係に基づいて成り立つものであることは変わることはありません。

日本医師会は、令和の時代も引き続き、「医療の専門家集団」として患者さんに寄り添いながら、安全安心な医療を提供できるよう、その体制の構築に向けた取り組みを進めて参ります。

日本医師会 会長

横倉義武

